

令和 2 年 6 月 17 日現在

機関番号：64401

研究種目：研究活動スタート支援

研究期間：2018～2019

課題番号：18H05643・19K20848

研究課題名（和文）ヒマラヤ東部地域における輸送インフラの発展と移動する身体に関する人類学的研究

研究課題名（英文）Anthropological Study on the Development of Transport Infrastructure and the Moving Bodies in Eastern Himalaya

研究代表者

古川 不可知（FURUKAWA, Fukachi）

国立民族学博物館・学術資源研究開発センター・機関研究員

研究者番号：00822644

交付決定額（研究期間全体）：（直接経費） 2,100,000円

研究成果の概要（和文）：本研究はヒマラヤの山岳地域において、輸送機械やインフラが周辺社会および人々の実践にどのような変化をもたらすのか、現地調査に基づいて考察するものである。車道建設の進むネパール東部のソルクンブ郡と、英領時代に高度なインフラ整備がなされたインド西ベンガル州のダージリンを比較分析することで、ヒマラヤ東部における輸送インフラの発展史を跡付けるとともに、車道や鉄道といった輸送インフラは発展への期待と変化への恐れを同時に喚起すること、山間部の運転が歩行と連続的な実践と捉えられていることなどを明らかにした。

研究成果の学術的意義や社会的意義

グローバル化の進む現在、人々の移動はますます重要な現象となった。マクロな側面から捉えられることの多い移動を十分に理解するために、本研究ではいかなる物理的な構造が移動を可能とするのか、人々はそうした構造の上でどのように振舞うのかを考察した。また車道建設など輸送インフラの発展は、地域の開発に不可欠であると位置づけられている。山間部で進行中の車道建設が社会に及ぼす変化を観察する本研究は、単なるインフラありきの開発を超え、地域に根差した発展のあり方を模索するための一事例も提供する。

研究成果の概要（英文）：This study aims to investigate the effect of transportation infrastructure having on societies and people's practices in the mountainous regions of the Himalayas. Based on the fieldwork, this study compares Solukhumbu District in eastern Nepal, where roadway construction is underway, and Darjeeling in West Bengal, India, where advanced infrastructure such as roadways and mountain railways was developed during the British era. Tracing the history of infrastructural development in eastern Himalaya, this study shows some aspect of the relationships between mountainous terrain and transportation infrastructures, such that a roadway is an ambiguous object as a source of hope for development and fear for change both, that driving in the mountains is seen as a similar practice with walking in mountains, and so on.

研究分野：文化人類学

キーワード：インフラストラクチャー ヒマラヤ ネパール 車道 山岳観光

様式 C - 19、F - 19 - 1、Z - 19 (共通)

1. 研究開始当初の背景

申請者はこれまで山岳観光で有名なネパール東部のソルクンプ郡を調査地とし、住民であるシェルパ族やこの地域に集まってきたさまざまな人々によっておこなわれる、トレッキングや登山、荷運びといった山中を移動する活動に参加観察してきた。そして、歩くとはどのような実践か、「道がある」とはいかなる状態かについて考察を続けてきた。しかしながら身体と自然環境との直接的な関係を焦点化する筆者のこれまでの研究では、技術や国家が介在する「近代的な」環境下での移動をめぐる実践については実効的な議論をすることができていなかった。

他方、近年のグローバル化と呼ばれる状況のもとでは、人々の移動はこれまでになく顕著な現象となり、観光のほか、移民や難民などさまざまな移動が多様な視点から論じられている。しかしながら移動をめぐる多くの研究では、移動は集合的な現象と捉えられ、移動に際して個々人がどのような実践をおこなっているのか、またいかなる事物の配置がそうした移動を可能としているのかについては十分に検討されてこなかった。

人類学では2000年代に入ることより、インフラストラクチャー(以下インフラ)研究が盛んとなり、日常世界を支える基盤を物質性の側面からとらえなおすことが試みられるようになった。この過程では輸送インフラについてもいくつかの研究が現れている。ただしこうした研究では、道路や鉄道といった大規模インフラが対象とされており、個々の移動がどのようになされているかは依然として看過されがちであった。移動という現象を十全に理解するには、マクロな技術社会的背景と、個別具体的な人々の身体実践を接続して考察する必要がある。

2. 研究の目的

そこで本研究では、これまでの調査地であり車道の建設が進行中のソルクンプ郡に加え、新たにインド西ベンガル州のダージリンを調査地とし、輸送機械やインフラによって社会および人々の移動実践や環境認識がどう変容する(もしくははしない)のかを、比較を通して検討することとした。ダージリンは19世紀以来の労働移民や探検などを通してソルクンプ郡と密接な関係を持つ山岳地域であり、ネパール系住民の居住地である。その一方でダージリンは、車道のないソルクンプとは対照的に、英国による植民地体制下で舗装道や鉄道といった輸送インフラを高度に発展させてきた。

具体的な目的としては、ソルクンプ郡とダージリンというヒマラヤ東部のふたつの山岳地帯において、山間部の輸送インフラはいかに構築・管理され、住民たちはそれをどのように意味づけるのか、山中の移動はどのような身体的実践を伴い、当人たちはそうした振る舞いをどのように言語化しているのか、また移動手段の違いが人々の環境認識にどのような差異をもたらすかを明らかにする

3. 研究の方法

本研究は、a. ヒマラヤの輸送インフラをめぐる言説の収集と構築・管理過程の観察、b. 山中を移動する実践への参加観察、およびc. 理論的枠組みの検討によって構成される。

a. 輸送インフラをめぐる言説の収集と構築・管理過程の観察

ソルクンプ郡の南部で進行中の車道建設工事の様子を観察し、沿道の人々や関係者から車道についての見解を聞き取る。また進行中の建設工事が沿道社会に与える影響を考察する。ダージリンでは、植民地期のインフラ開発に関する文献を収集するとともに、山岳鉄道と車道の維持管理に関わる人々に聞き取りを実施する。またソルクンプとダージリンを往来してきた住民たちに、その経験や両地点の意味付けなどを聞き取る

b. 移動する実践への参加観察

ソルクンプ郡とダージリンの両地点にて、山中を徒歩や車両、また鉄道を通して移動する人々に同行する形での参加観察をおこない、移動中の振舞いや語りなどを記録する。特に両地点に共通する主要な交通手段である乗合ジープのドライバーからは、ライフヒストリーや山道を運転することについての見解を聞き取る。

c. 理論的枠組みの検討

ジェームズ・ギブソンやアンディ・クラークの仕事を中心に、人間の移動と知覚に関してなされてきた生態心理学や認知科学やの研究を整理し、ティム・インゴルドの人類学的生態学にいたる流れへと接続する。また社会学のモビリティ研究を批判的に検討し、近代西洋を中心になされてきた移動研究を、山という地勢に応用できるように枠組みを定める。以上のふたつの作業を通してデータを位置づけるための理論的枠組みを設定する。

4. 研究成果

本研究では一年半の研究期間中にネパール・ソルクンプ郡にて4度、ダージリンにて1度の現地調査を実施した。なおネパールにおける車道の建設が計画段階の予測以上に急ピッチで進展していたことから、特にソルクンプ郡の現状に力点を置いて調査を実施することとなったものである。

a-1. 車道をめぐる両義的な言説

ネパールに一般的な傾向として、車道は発展の観念と結びつき、概して肯定的に捉えられることが指摘されてきた。本調査でもソルクンプ郡の車道予定地の沿道住民はおおむね車道の開通を心待ちにしていることを聞き取りから確認できた。その一方で山岳観光が主要な産業であるソルクンプでは、車道はトレッキング観光と部分的に競合関係にあることが認識され、実際に車道の建設が近づくとガイドやロッジ経営者などを中心に不満の声が上がることを確認した。

a-2. 車道建設の経済的側面の分析

ソルクンプ郡における車道建設作業現場での聞き取りから、請負方式や工事の進め方、労働者の属性や召集の方法などを確認した。とりわけ村落のリーダーが請負者となって同村の者を集めること、車道建設の労働はトレッキング・ガイドやポーターといった観光労働の代補として捉えられていること、車道は維持管理に工数を要することため半永久的な労働需要が期待されていることなどを聞き取った。また車道の延伸とともにルートを拡大する乗合ジープ業者について、業者数やビジネスモデルを聞き取り、運行状況やドライバーの雇用形態などのデータを収集した。

b-1. 山間部を運転することの実践をめぐる観察と聞き取り

ドライバーたちにインタビューを実施し、ライフヒストリーや車両入手の経緯、山を運転することの意味などといった質的なデータを収集した。さらに乗合ジープでの参与観察から、人々は山間部の運転を、山道を歩くときと同じ語意を用いて語ること、山を運転する際の感覚の向け方と山を歩くときとそれが同様のこととして説明されていることを明らかにした。また職業としてのトレッキング・ガイドとドライバーは、しばしば類似するものと語られていることを確認した。山間部を歩くことと運転することの連続性については、c-1の成果と合わせて IUAES 等にて発表をおこなっている。

b-2. ダージリン山岳鉄道をめぐる語りと鉄道利用の観察

ダージリンにおける乗合ジープと山岳鉄道の乗り込み調査は、窮屈ながら安く早い日々の足としての乗合ジープと、座席の指定された高額かつ速度の遅い観光資源としての山岳鉄道という、異なった輸送インフラの対比的なあり方を明らかにした。同時に、速度が遅く飛び乗りや飛び降りの容易な鉄道は、住民が近距離を無料で移動する手段として利用されているなど、設計者の予測を裏切る人々の日常実践も明らかにした。

c-1. 環境認識をめぐる議論と人類学的生態学の接続

人類学における認知科学および生態学の受容をティム・インゴルドの著作を中心に整理した。この成果は上記の発見の土台となったほか、博論を改稿した単著『シェルパと道の人類学』の理論的枠組みの一部も構成している。また成果の一部は、現在進行中の複数の翻訳プロジェクトの刊行物しても発表予定である。

c-2. モビリティと物質性という分析枠組みの確立

ジョン・アーリの著作や雑誌 *Mobilities* の読み込みを通して、モビリティ研究が近代西洋社会の移動を中心的な尺度とすること、平らな場所の移動が前提となっていること、移動をめぐる物質的な側面については言及されているものの深められていないことなどを指摘した。この点は、2019年10月より筆者が研究代表としてスタートした国立民族学博物館の若手共同研究「モビリティと物質性の人類学」の枠組みとなっており、世界各地の事例との比較研究という形でも研究を展開させる予定である。

5. 主な発表論文等

〔雑誌論文〕 計3件（うち査読付論文 1件/うち国際共著 0件/うちオープンアクセス 3件）

1. 著者名 古川不可知	4. 巻 1
2. 論文標題 モビリティと物質性の人類学 移動の物質的側面を追って	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 民博通信Online	6. 最初と最後の頁 30-31
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） 10.15021/00009502	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスとしている（また、その予定である）	国際共著 -

1. 著者名 古川 不可知	4. 巻 83
2. 論文標題 インフラストラクチャーとしての山道	5. 発行年 2018年
3. 雑誌名 文化人類学	6. 最初と最後の頁 423～440
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） https://doi.org/10.14890/jjcanth.83.3_423	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている（また、その予定である）	国際共著 -

1. 著者名 古川不可知	4. 巻 164
2. 論文標題 インフラストラクチャーをめぐる人類学的研究の動向	5. 発行年 2019年
3. 雑誌名 民博通信	6. 最初と最後の頁 25-25
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） 10.15021/00009410	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスとしている（また、その予定である）	国際共著 -

〔学会発表〕 計3件（うち招待講演 1件/うち国際学会 1件）

1. 発表者名 古川不可知
2. 発表標題 土砂崩れとぬかるみ ヒマラヤ山間部を運転することについての試論
3. 学会等名 日本文化人類学会第53回研究大会
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 Furukawa Fukachi
2. 発表標題 Mountain Trails as Infrastructure: Trekking Tourism and Development in Solukhumbu, Nepal
3. 学会等名 IUAES 2019 Inter-Congress (国際学会)
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 古川不可知
2. 発表標題 山道を歩くこと、山間部を運転すること ネパール・ソルクンブ郡、山岳観光地域における車道建設をめぐって
3. 学会等名 白山人類学研究会 (招待講演)
4. 発表年 2019年

〔図書〕 計2件

1. 著者名 古川 不可知	4. 発行年 2020年
2. 出版社 亜紀書房	5. 総ページ数 368
3. 書名 「シェルバ」と道の人類学	

1. 著者名 日本ネパール協会(編)	4. 発行年 2020年
2. 出版社 明石書店	5. 総ページ数 396
3. 書名 現代ネパールを知るための60章	

〔産業財産権〕

〔その他〕

研究会発表等ほか5件、エッセイその他ほか9件

6. 研究組織

	氏名 (ローマ字氏名) (研究者番号)	所属研究機関・部局・職 (機関番号)	備考
--	---------------------------	-----------------------	----